

沙羅の樹文庫だより



あたらしく、ぶんこにはいったこどものほん

えほん：『ヒロシマのいのちの水』（指田和文 野村たかあき絵 文研出版）
 『だれもしらないバクさんのよる』（まつざわありさ作）『わんぱくゴンタ』『もりはおおさわぎ』（ビーゲンセン作 絵本塾出版）
 ※はじめの1さつは、中西さんから、あとの3さつは、しゅっぱんしゃからいただきました。
 中高学年のよみもの：『パパはバードマン』（デイヴィッド・アーモンド作 金原瑞人訳 フレーベル館）『おーい でてこい（ショートショート傑作選）』（星新一作 講談社）
 朽木祥の作品を集めました。『彼岸花はきつねのかんざし』（学研）『風の靴』（講談社）『引き出しの中の家』（金の星社）『オン・ザ・ライン』（小学館）『八月の光』（偕成社）※ほかにも『ぼくのネコにはウサギのしっぽ』『とびらをあげれば魔法の時間』『たそがれー不知火の物語』が文庫にあります。

◆2012・文庫の後半の催し物◆

）秋の夜長のおはなし会（
 10月20日（土） 午後5：00～6：45（大きい人向け）
 ゲスト 朗読：吉川仲子さん（小僧の神様）
 &
 おはなし・沙羅（ジージコッコラ：イタリアの昔話、水たまり：日本の説話）ほか

☆屋下がりのひととき読書会☆
 （好きな本についておしゃべりしましょう会 no.2 ）
 11月18日（日） 午後3：00～5：00

★★クリスマスお楽しみ会★★
 12月16日（日） 午前10：30～12：00
 フルート演奏：内山洋子さん&伊藤楓音・颯岳姉弟
 落語：片岡晴哉くん（予定）
 そして
 楽しいプレゼント交換・おやつ

文庫あれこれ◆暑い夏に気を吸いとられ。ポーっとしているうちに9月。伊豆高原は秋でした。朝おきて窓を開けたら、秋の風が吹き抜けました。◆皆さん、お元気ですか？夏の疲れは出ていませんか？8月は夏休みで文庫をお休みにした子ども達も元気に顔をだしてくれるでしょうか。◆私は、10月11月は何かといそがしく、ここで英気を養って（この使い方おかし？）またひとふんばりしたいと考えています。◆本は丁寧に扱ってもだんだん痛んでいきます。当初は、購入の際、フィルムコートをしてもらっていましたが、1冊120円もするので、それならほかに本を買ったほうが、とやめてしまいました。幸い手先の器用なOさんが文庫や自宅でそれをやってくださるようになり、読み古されたものも、少しずつカバーのしっかりした本に生まれ変わり始めています。◆来月は、秋のおはなし会があります。ぜひ耳からの文学を聴きにきてください。昼間と違った夜の文庫が醸し出す不思議な雰囲気を感じてみてください。◆ひとつお願いとご注意です。ときどき忘れ物があります。帽子、靴下、傘、等々。忘れたかなと思ったらお尋ね下さいね。（西村）

連絡先 沙羅の樹文庫 電話：0557-51-3737

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆9月は通常 15日（土）、16日（日）
 - ◆10月は通常 20日（土）、21日（日）
 - ◆11月は通常 17日（土）、18日（日）
 - ◆12月は通常 15日（土）、16日（日）
- ※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時
 ※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
 午前10：30～11：00
 《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
 おはなし・沙羅の勉強会は
 毎月第3土曜 11：00～13：00



彼岸花

今年の中秋の名月は9月30日ですよ！

いっしょにああいきに

いっしょに のぎくみち
 ここで やすんでいきませんか
 すこし おはなししませんか
 きのうみた ゆめのはなしや
 あしたの おてんきのこと
 かげの はしるすがたや
 ひかりの こぼれぐあいについて
 そして
 あなたが どこからきて
 どこへいくのか なども・・・
 ゆっくりゆっくり
 うなずきあって
 しばらくいっしょに
 すごしませんか

版画のはらうたII
くどうなおこ作

9月に読んだ本についての感想

2012年9月12日 By 森林浴

ポプラ社の「100年文庫」100冊はそれぞれ1字の題名がついている。例えば第60巻は、「肌」とあって、これがまことに巧い1字なのである。この本の3篇の小説はいずれも男女の情痴を書いた愛欲物語。

60「肌」の

丹羽 文雄「交叉点」 文壇の重鎮だった此の作者、さすがに巧い。結局は棄てられる女「友子」がそうとも気が付かず深夜男のいなくなったアパートの部屋に鮫を持って忍んでゆく最後が哀れである。

船橋 聖一「ツンバ売りのお鈴」 作者自身の経験談らしいが、掏りの女に翻弄される作者の好人物ぶりにはちょっと信じ難い。

古山 高麗雄「金色の鼻」 妙にピントのボケた女と結婚して離婚するまでの平凡な中年男の人生を淡々と。

53「街」の

谷 譲治「感傷の靴」 メリケン・ジャップといわれたアメリカに住みついた日本人のコミカルな挙動を明るいタッチで読ませる。日本人としての誇りを發揮しようと工夫するところが面白い。

子母澤 寛「チコのはなし」 お手伝いさんをしている幸薄き老女が、片目の棄て犬を拾ってきて、戦死した息子の代わりとして溺愛して育てていたのだが、老女が突然病死。残された犬チコは死んだ飼い主を慕って食を断ち、初雪の朝ついに死ぬ。犬好きな人には「号泣」ものの短編。

富士 正晴「一夜の宿・恋の傍杖」 終戦後の混乱期の神戸での男女の入り乱れたやり取り・生活が活力ある巧みな文章で活写されている。

55「空」の

北原 武夫「聖家族」 こんな奇妙な小説は初めて読んだ。現実離れとはこんな作品を言うのであろうか。**ジョージ・ムーア「懐郷」** 20世紀初頭、アメリカへ移民した男が心身ともに疲れて、故郷のアイラン

ドの田舎に帰ってくる。しかし故郷の村は貧しくさびれ、カトリック教会の旧弊な支配も重苦しい。男は村の可憐な娘と結婚の約束をしたが、急にニューヨークの酒場の仕事に帰りたくなり、娘を振り切ってアメリカに帰ってしまう。何十年かが経過、男はニューヨークで結婚して子供ができ、その子供も大人になってしまう。暖炉の火を見つめながら思い出すのは村娘のこと……。

藤枝 静雄「悲しいだけ」 静岡県藤枝市出身の作者は、結核やガンで35年間病に苛まれついに世を去った妻の思い出に浸りながら、田舎の山野をさまよいて歩く。『「妻の死が悲しいだけ」という感覚が塊となって、物質のように実際に存在している。』のである。

35「灰」の

中島 敦「かめれおん日記」 知的で自省的な女子高の教師の思索的な生活記録。喘息に苦しめられ、33歳で世を去った作者の代表作「山月記」を読んでいないのは私の心残り。

石川 淳「明月珠」 江戸っ子ならではの批評眼で独特の高みに住んでいた作者。永井荷風の住まいが戦争で焼け落ちたことがヒントになっている。孤高の強い文体。

島尾 敏雄「アスファルトと蜘蛛の子ら」 先の大戦で、奄美諸島で特攻隊長だったが一度も出撃しないまま敗戦の日を迎えた作者は、何か事前に8月15日終戦を知っている。その極限的な1日を見事に描写している。

* * * * *

「ネゴシエーター」 ベン・ロペス著 **土屋晃・近藤隆文訳 柏書房刊 2012年7月第1版**

誘拐事件の犯人と交渉して人質を取り返すプロの事件簿。南米・中近東などでは、誘拐は実入りのよい犯罪で頻発。警察には一切連絡しない。金を払って人質を取り返すだけ。心理学を修めた男が緻密で超ハードなプロセスで犯人側と交渉する。正義は目的ではない。こんな世界には一切かかわりたくないものだ。

9月に文庫に入った大人の本

『**鍵のない夢を見る**』（辻村深月著 文芸春秋）※直木賞受賞作

『**あのころのデパート**』（長野まゆみ著 新潮社）

『**湿地**』（アーナデュル・インドリダソン著 柳沢由美子訳 東京創元社）※request

『**黙祷の時間**』（ジグフリート・レンツ著 松永美穂訳 新潮社）※request

『**三国志 7～10**』（小前亮文 理論社）※request

『**あなたへ**』（森沢明夫著 幻冬舎文庫）※寄贈

『**あの日、パナマホテルで**』（ジェイミー・フォード著 前田一平訳 集英社文庫）

『**歌に私は泣くだろう**』（永田和宏著 新潮社）※request

『**激しい生と美しい死を**』（瀬戸内寂聴著 新潮社）

『**大丈夫、死ぬまで生きる**』（藤沢モト著 角川書店）

『**幸せは弱さにある**』（曾野綾子著 イースト・プレス）

『**漢字の魔力**』（佐々木睦著 講談社）

『**ぼくの住まい論**』（内田樹著 新潮社）

『**生きる悪知恵**』（西原理恵子著 文春新書）

『**ラジオの心**』（小沢昭一著 文春新書）

『**無縁社会**』（NHKスペシャル取材班編著 文春文庫）※寄贈

★ほかに、以下、寄贈いただきました。

『**江國香織とっておき作品集**』 『**ひとりで生きる一堀文子の言葉**』 『**理系バカと文系バカ**』（竹内薫著）

『**ぶらり平蔵**』（吉岡道夫著） 『**秋思ノ人**』（佐伯泰英著） 『**ベッドタイムアイズ**』（山田詠美著） 『**息がとまるほど**』（唯川恵著） 『**猫**』（クラフト・エヴィング商会）※著名作家たちの猫に纏わる話

『**エンピツ画のすすめ**』（風間完著）

★さらに、古い本ですが、続々と寄贈本整理入庫始まっています。Kさん<ハヤカワミステリ>下記もどうぞ。 『**断崖**』 『**サバイバル・ゲーム**』

『**つながれた山羊**』 『**バルザック刑事と女捜査官**』 『**豹の呼ぶ声**』 『**三つの迷宮**』 『**ただ一度の挑戦**』 『**罪深き村の犯罪**』